

## 令和5年度第1回健康創造都市 KOBE 推進会議総会 摘録

■日時 : 令和5年7月10(月) 13時30分～14時35分

■場所 : 明治安田生命神戸ビル4階会議室(オフライン会場)

Zoomによるオンライン開催(オンライン開催)

■出席団体 : 42団体(計46名)

■議事 :

### 1. 開会

### 2. 議題

#### (1) 健康創造都市 KOBE 推進会議 取組み状況について

##### ①コンテンツ部会の取組み報告【資料1】

コンテンツ部会・部会長(株式会社江崎グリコ)より【資料1】について説明。

・部会長および副部会長の交代(江崎グリコとアシックスが1年ごとに部会長を務めている(2023年は江崎グリコが部会長、アシックスが副部会長)。令和4年(2022年)のコンテンツ部会は年4回開催した。

・具体的な活動は、5つのプロジェクトにおいて進めている。

#### 1) 神戸市民の健康リテラシー向上させる活動

・令和3年度に立ち上げた健康創造都市のHPを活用し、健康情報を広く発信し、市民の健康と暮らしの向上を目指す。毎月参画団体から記事をいただき掲載。

#### 2) 高齢者の介護予防のための活動

・ロコモフレイルのような運動機能障害を防ぎ、健康寿命の延伸、QOL向上を通じて神戸をすこやかにすることを目的に議論を進めている。コロナ禍で活動が制限されており、ひとまず健康創造都市のHPにコンテンツを掲載。今年度は、セミナーなどのイベントを実施していく。

#### 3) 妊娠期から中高年までの栄養課題の改善のための活動

・「妊娠期を中心とした栄養課題の改善」として、MCKの妊産婦コースなどを活用した妊娠期の運動対応に関する啓発を行った。妊産婦コース使用者:67名(令和5年(2023年)2月時点)。オンラインだけではなく、セミナー、勉強会及びイベント等のオフラインでユーザー数を増やしていく予定。

・「朝食欠食改善プログラム」として、ナッジのような取組みを通して、若者世代の朝食欠食を減らし、健康課題を解決していく実証実験を実施(286名の方が参加)。食事記録に対してインセンティブを付けることで食事記録率が10%→25%まで増加。ただ、無関心層を動かすのは難しく、職場内での朝食環境を整備する方向性が効果的ではないか(朝食の提供等)。令和4年(2022年)度にてプロジェクト完了。

#### 4) 中高年から高齢者の認知機能向上のための活動

・脳機能に着目したフィンランドのFINGER(フィンガー)研究の神戸版として、運動・脳トレ・栄養といった3本柱でコンテンツ提供をすることで、認知機能の低下予防する。まずは認知症予防に関するセミナー(今年12月頃)開催予定。

#### 5) 健康無関心層の行動変容を促すための活動

- ・フジッコ(株)・ヤノ運動用品(株)・(株)アシックス・(株)JTB 神戸支店の4社で発足した神戸あるく部において、令和4年(2022年)度に以下2回のイベント開催。
- ・第一回パンあるき：令和4年(2022年)4月29日(金・祝)  
神戸新聞に掲載し、目標を上回る134名の申込みがあり、そのうち9割超が参加。  
協力：神戸市経済観光局、JR西日本コミュニケーションズ
- ・第二回は酒あるき：令和4年(2022年)10月1日(土)  
53名(申込者の10割)が参加。協力：剣菱酒造

## ②健康経営部会の取組み報告【資料2】

健康経営部会・部会長(明治安田生命保険相互会社)より【資料2】について説明

- ・健康経営部会は43企業・団体が参画している(令和5年(2023年)6月末現在)。
- ・明治安田生命保険相互会社が部会長、日本イーライリリー(株)が副部会長を務め、神戸市内の企業や団体における健康経営の促進。
- ・令和4年(2022年)度実施事項①  
健康経営を啓発する活動として、健康経営に関するコンテンツや無料のセミナー情報を掲載したメルマガを、月1回ペースで参画企業向けに配信。令和4年(2022年)度は11回の配信。
- ・令和4年(2022年)度実施事項②  
健康経営を啓発するセミナー「こうべ健康経営会議2022」を開催(令和4年(2022年)12月2日(金)開催)。参加者約60名。健康経営に関する最新トレンドや、部会メンバー等の取組事例をご紹介。
- ・令和4年(2022年)度実施事項③  
健康経営に関する課題研究として、「健康経営実践プロジェクトチーム」において立ち上げた「“みえない多様性”に優しい職場づくり」プロジェクトでは、片頭痛など見た目にはわかりづらい症状、周囲に理解されないことで生じる不安や働きづらさを「みえない多様性」として定義し、みえない多様性を理解することによって、一人一人の行動変容と誰もが働きやすい環境を目指すことを目的に取り組んでおり、その活動が認められ、複数のアワードを受賞した。
- ・令和4年度第一回健康経営部会(7月8日(金)開催)において、「みえない多様性」のワークショップをリアル・WEBの両方で開催し、新聞などでも取り上げられた。
- ・健康経営部会で実施したアンケートにおいて、健康経営優良法人の認定を受けたい企業が多数を占めたことや、認定を受けるための取組みが自社だけでは困難である等の意見が出たこと等を踏まえ、令和4年(2023年)度においても、メルマガの発信を継続するとともに、部会メンバーでの取組みの紹介など、参画団体の健康経営優良法人認定に向けて引き続き取り組んでいく。

## (2)今年度以降の当会議の方向性等について

### ①推進会議の方向性及び提案について

神戸市健康局の森井部長・朱課長より【資料3】について説明。

<設立経緯や現状についての課題について>

・本会議は、神戸経済同友会からの提言を踏まえ、全ての市民が健康になるまち「健康創造都市 KOBE」をめざし、活発な議論、提案を行い、実践につなげていくため、「健康創造都市 KOBE 推進会議」を平成 29 年 7 月に設立した。

・本市より設立当初の時代背景に応じた 5 つの検討項目（短期目標）を提示させていただき、これまでの 6 年間、こうべ健康経営会議や MCK をはじめ、各部会でそれぞれの検討項目に応じた取組みを実施していただいていたところである。

・一定の取組みを進め、次のステージへ歩みを進めようとしていた矢先に、コロナ禍で交流の機会が減少し、活動の停滞や推進会議の形骸化が余儀なくされた。市としても十分な関与ができておらず、今後の発展に対して危機感がある。

・コロナの 5 類感染症への移行、また「健康日本 21（第 3 次）」で国からも新たな方向性が示され、この機会に改めて「健康創造都市 KOBE 推進会議」を次のステージへ進め、活性化していきたいと考えている。

・神戸市からの提案①～③をもとに皆様にも一から議論いただきたい。

①神戸市の現在の健康課題や国の「健康日本 21（第 3 次）」に基づき検討項目を統合・再編。

②統合・再編にあたっては、項目数を絞るとともに、3 か年計画とし、重点的に取り組む。

③具体的に取り組むにあたっては、部会の枠を越えたワークショップを開催し、検討項目に沿ってプロジェクトの再編および新規プロジェクトの立ち上げを行う。

<厚労省から示された「次期国民健康づくり運動プラン」の概要について>

「死亡率の減少」は A 評価（目標値に達した）とされているが、生活習慣病（栄養・食生活・身体活動・飲酒等）については、C（変わらない）や D（悪化している）の評価となっている。生活習慣の変化が死亡率の動向に反映されるまで数十年規模のタイムラグがあることから、今後は、日本人の健康状態や死亡率の動向は悪化していく方向だろうとの見解が示されている。健康日本 21（第三次）の新たな視点としては、女性の健康、自然に健康になれる環境づくり、多様な主体を巻き込んだ健康経営の推進等が示されている。

<今後の本会議の方向性等について>

厚労省からこの度健康 21（第三次）で新たな視点が盛り込まれたこともあり、検討項目（短期目標）を、①健康経営の推進②健康関心が薄い物を含め自然に健康になれる環境づくりの推進、の 2 つへ統合・再編することを提案。これまでの取組みについても、新たな検討項目（短期目標）に紐づけて引き続き検討を行う。

<具体的なプロジェクト案について>

検討項目（短期目標）①「健康経営の推進」に係るプロジェクト案

**案 1**：参画団体「健康経営優良法人」取得支援

「健康経営優良法人」の取得を希望する参画団体が多くいることから、既に「健康経営優良法人」を取得している団体等からの支援を受け、取得に向けた支援を行う。

**案 2**：受診勧奨や医療機関を受診できる環境整備

参画団体の受診状況を統計データとして集計し、自社の位置を見える化する。  
受診勧奨や医療機関を受診することができる環境整備（休暇の取得等）に向け、目標を設定し取り組む。

**案3**：若年期の女性（被扶養者）の健康を守る環境整備

国の調査等により、若年期の女性（被扶養者）の健診未受診率が低いことが分かっている。被扶養者の健康を守ることも各保険者の義務とされていることから、被扶養者も含めた検診受診率の状況を統計データ化し、自社の位置を見える化する。

検討項目（短期目標）②「健康関心が薄い物を含め自然に健康になれる環境づくりの推進」に係るプロジェクト案

**案1**：健康無関心層を含め誰もが無理なく健康になれる環境づくり

企業だからこそできる取組みについて意見交換をしていただき、関心期・準備期の方をターゲットとして、イベント等の単発ものではなく、継続的に取り組める内容とすることが重要だと考えている。

<今後のスケジュールについて>

今年度9月以降、2部会の枠を超えたプロジェクト再編ワークショップを開催させていただく予定である。その後、令和6年1月にもう1度総会を開催し、新たな検討項目（短期目標）の決定と、プロジェクトの再編を行っていきたいと考えている。本市からの提案はあくまで案であって、一から皆様に議論いただきたい。

## ②意見交換

<橋本座長>

事務局から提案があった短期目標とそれに基づく方向性等について、意見交換を行う時間とさせていただきます。皆様、忌憚のないご意見をよろしくお願いします。

<渡辺副座長>

検討項目（短期目標）やプロジェクトを整理して統合するのは良いが、神戸市として、どのようなデータに基づいて健康施策を推進していくのかが定まっていらないのではないかと思います。本会議においても、具体的な方針がないと参画団体も動きづらいつけるが、神戸市全体としてのヘルスケア政策、マスタープラン、ビジョンについて、神戸市から説明をしてもらいたい。

<神戸市健康局 花田局長>

現在神戸市の健康施策について、十分な科学的データを用いて実施できていないのが現状である。コロナも5類へ移行し、感染状況も落ち着いてきたため、神戸市の健康施策を進めるにあたり、どこに課題があつて、どこに注力していくのか、これから取り組んでいきたい。健康局の使命・ビジョンの1つに「健康寿命の延伸」があり、それは3つの要因によるものとする。

1つ目は、ご自身の健康のためである。

2つ目は、財政支出の圧縮である。高齢者が増え、社会保障費や介護保険制度的にも厳しい状況である。健康寿命の延伸により、健康で過ごしていただく期間を延ばし、持続可能なまちづくりのため財政の伸び等を圧縮していくことが重要である。

3つ目は、労働人口の確保である。人口減少により生産労働人口が減っている中、元気な高齢者は貴重な労働力である。子育て世帯や外国人労働者を労働力として活用することも大事だが限界があるため、健康寿命を延伸し高齢者の方にもパートタイム的にでも働いてもらえれば、経済の活力である労働人口の増加につながると思う。

これらの神戸市の健康施策については、神戸市が責任をもって考え、皆様から意見をもらいながら進めていく。この創造都市 KOBE 推進会議において、神戸市は皆様に何を求めているのかという点についてであるが、この会議に参画してもらっているのは、企業の皆様であり、働き世代である。検診や特定検診については、各保険者の責任でやっていくべきものであり、神戸市は働きかけを行うのみである。ただ、働き世代にこそ多くの健康に対する無関心層が存在すると思われ、保険者が責任をもってやるこの領域に、神戸市は直接的なアプローチができないため、ウィークポイントだと考えている。このウィークポイントに注力するため、参画団体の皆様と一緒に取り組んでいきたい。

この総会の開催にあたって、今後の方向性等について、いくつかの企業の皆様からご意見をいただいた。参画いただいているのは企業の皆様なので、まずはそこで働いている社員の方々に向けた取組みを進めていってはどうかという提案もしたが、一部の参画団体の方から、市民向けの取組みも当初設立の経緯から引き続きこの会議体で実施していくべきだとの意見もいただいている。個人的には、まずはやはり働き世代に特化して取り組んだ方が、効果があるのではないかと考える。

#### <参画団体A>

働いている方にフォーカスするとのことだが、働き世代ではない高齢者の中にも健康無関心層が一定いるため注力することが大事だと認識。無関心層かつ働いていない方に対して、働きかける場があるのであれば、示されたアプローチができる。高齢者の中には健康を諦めている人もいるが、運動し続けることが大事だと根気強く啓発していくことは、官民一体でできる。

#### <参画団体B>

推進会議の活動が形骸化していると感じているため、ここで方向性を修正していくことに賛同する。コロナも5類に移行し、仕切り直して、神戸市の健康増進に寄与できる活動にしていければ良い。前提として、参画企業はこの会議体に企業としてメリット・意義を感じ、参画するものと認識。神戸市は、企業がメリット・意義を感じ、参画・活動しやすいような会議体にするので、企業もリソース（人材、物質、時間などの経営資源）を出していく。

#### <参画団体C>

この推進会議の参画企業は119団体と多いが、積極的に参加しているのは一部に限られる。

なぜ参画団体がこの推進会議へ参加するのか、モチベーションの擦り合わせができていないと感じる。今後、プロジェクト等を再編という方向性には、賛同する。

<参画団体D>

神戸市から提案があった方向性等には賛同し異論はない。

4月からこの役目を担っているため、参画団体の従業員に向けて取り組むのか、市民に向けて取り組むのか等、もう少し上手く情報発信することができるのではないかと感じる。また上手く情報発信することで、解決する方法があると感じる。今後協力して進めていきたい。

<参画団体E>

過去、企業交流リレーマラソンや、コンテンツ部会のプロジェクト1・5に参画、創造都市 KOBE 推進会議のホームページに記事を投稿している。その他、「あるく部」などの取組みもやってきたが、5～6年前に比べて、参画団体のメンバーがガラッと変わっている。今は、形に無理やりはまっている状態だったり、オンラインで参加するのみのメンバーもいる。現在の参画団体メンバーが、ワークショップ等を通して、「こんなことをやりたい」というコミットする場があるのは良いことだと考える。

神戸市から提案にある参画団体・企業が自社の社員にアプローチする方が市民へアプローチするより簡単である。本推進会議として取り組むなら、参画団体・企業向けの方がやりやすいのではないかと感じる。例えば、「健康経営に有益な情報が載っているサイト（企業向けのコンテンツ）を読んで下さい」と参画団体・企業の社員へアクセスを促し、創造都市 KOBE 推進会議のHPの会員ページは、企業の従業員が見るためのサイトにする等である。市民向けに何か取り組むよりも、簡単でやりやすい。

<参画団体F>

弊社は20年来、ベッド・ピローを作っており睡眠の重要性を熟知しているが、その重要性を分かっておられない方が多い。人生の1/3が睡眠であり、健康ということを考えたとき、睡眠を通してお手伝いができたらと思っている。1企業で実施ではなく、参画団体と手を取りながら進めていきたい。

<参画団体G>

弊社の持つプラットフォーム上で、患者の困り事の情報が蓄積されているため、他の企業様にも共有できればと考える。次年度以降は、既存のプラットフォームに睡眠や食事等の付加価値を付けることまで辿り着けないかと感じる。今後は、市民が受け入れてくれるもの、お金につなげられるサステナブルなサービスとして展開していきたいと考えるため、皆様と気軽にディスカッションしていきたい。

<事務局：神戸市健康局健康企画課 朱課長>

多くの忌憚のないご意見をいただき、誠にありがとうございました。

今年度中にプロジェクト再編ワークショップを3回開催する。多くの参画団体の皆様にご

参加いただき、プロジェクト再編等にご協力をいただきたい。

<事務局：神戸市健康局 三川副局長>

本日いただいたご意見を踏まえ、今後、9月から計3回、プロジェクト再編ワークショップを開催、令和6年1月には、第2回総会を開催し、検討項目（短期目標）の決定、プロジェクト再編をはかる予定。創造都市 KOBE 推進会議にご参画の皆様におかれましては、是非このワークショップにご参加いただき、創造都市 KOBE の推進に向け、プロジェクトの企画・検討そして推進にお力添えをいただきたい。

### **3. 閉会**